

# 財務概況

## 経営成績の状況

	2021年3月期(百万円)	2022年3月期(百万円)	前期比(%)
売上収益	134,732	143,543	6.5
営業利益	17,858	19,441	8.9
税引前当期利益	18,165	20,421	12.4
親会社の所有者に帰属する当期利益	12,695	14,415	13.6

- 売上収益は143,543百万円(前期比6.5%増)となりました。国内においては、機器販売事業で主力の小型貫流ボイラやメディカル機器に設備投資需要の回復がみられ、販売が増加し、メンテナンス事業も堅調に推移しました。海外においては、機器販売事業で前期に新型コロナウイルス感染症の影響で販売が低調だった国や地域において、設備投資需要の回復がみられ、メンテナンス事業は堅調に推移しました。
- 利益面につきましては、増収効果や販売商品の構成変化もあり、増益となりました。営業利益は19,441百万円(前期比8.9%増)、税引前当期利益は20,421百万円(前期比12.4%増)、親会社の所有者に帰属する当期利益は14,415百万円(前期比13.6%増)となり、いずれの利益も過去最高益を更新しました。

## セグメント別の損益状況

事業セグメント	売上収益			セグメント利益			
	2021年3月期 (百万円)	2022年3月期 (百万円)	前期比 (%)	2021年3月期 (百万円)	2022年3月期 (百万円)	前期比 (%)	
国内	機器販売事業	60,416	63,122	+4.5	4,882	5,831	+19.4
	メンテナンス事業	34,797	37,012	+6.4	9,524	9,637	+1.2
	ランドリー事業	12,583	13,112	+4.2	178	322	+80.8
海外	機器販売事業	19,707	22,476	+14.1	2,054	2,357	+14.7
	メンテナンス事業	7,173	7,761	+8.2	1,236	1,310	+6.0
その他	54	58	+7.4	▲18	▲16	—	
調整額	—	—	—	▲72	▲84	—	
合計	134,732	143,543	+6.5	17,858	19,441	+8.9	

### 国内機器販売事業

国内機器販売事業は、前期において好調に推移した舶用機器が、当期は国内での新造船建造量の減少により売上が大きく落ち込みましたが、ボイラ機器、メディカル機器などで設備投資需要の回復がみられ、売上が増加しました。この結果、当事業の売上収益は63,122百万円と前期(60,416百万円)に比べ4.5%増となりました。セグメント利益は、増収効果および利益率の高い製品や部品の売上が増加したことにより、5,831百万円と前期(4,882百万円)に比べ19.4%増となりました。

### 国内メンテナンス事業

国内メンテナンス事業は、有償保守契約件数の増加や省エネ等の提案活動の推進により、売上を伸ばしました。この結果、当事業の売上収益は37,012百万円と前期(34,797百万円)に比べ6.4%増となりました。セグメント利益は、9,637百万円と前期(9,524百万円)に比べ1.2%増となりました。

### ランドリー事業

国内ランドリー事業は、新型コロナウイルス感染症によるホテルや病院などのリネンサプライやクリーニング需要の減少により、お客様の設備投資意欲が引き続き減退していますが、アフターコロナに向けた生産性の向上、省人化や省エネなどを目的に、更新が延期されていた老朽化設備において需要回復の兆

しがみられ、売上が増加しました。この結果、当事業の売上収益は13,112百万円と前期(12,583百万円)に比べ4.2%増となりました。セグメント利益は、増収の影響や経費削減により322百万円と前期(178百万円)に比べ80.8%増となりました。

### 海外機器販売事業

海外機器販売事業は、前期において新型コロナウイルス感染症の影響で設備投資需要が減少していた国や地域で需要の回復がみられ、売上が増加しました。一方中国においては、米中

関係の不透明さによる経済成長への不安から、お客様の設備に対する投資回収の判断基準が厳しくなり、市場全体において投資への慎重な姿勢が取られました。また、年間を通じて各地で

### 海外メンテナンス事業

海外メンテナンス事業は、有償保守契約の積極的な提案による契約件数の増加により売上を伸ばしました。この結果、当事業の売上収益は7,761百万円と前期(7,173百万円)に比べ8.2%

実施し、更新需要や新規案件を確保しましたが、業績は横ばいとなりました。この結果、当事業の売上収益は22,476百万円と前期(19,707百万円)に比べ14.1%増となりました。セグメント利益は、2,357百万円と前期(2,054百万円)に比べ14.7%増となりました。

増となりました。セグメント利益は、1,310百万円と前期(1,236百万円)に比べ6.0%増となりました。

## 財政状態の状況

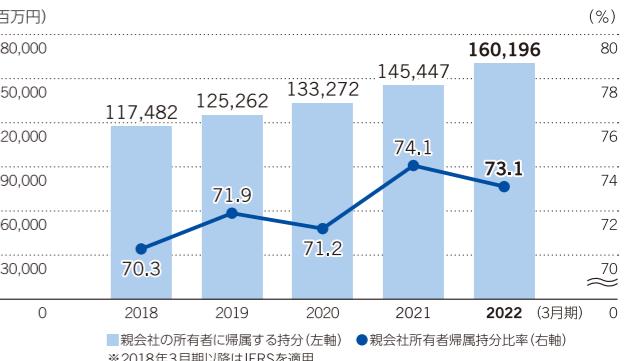
2022年3月期の資産合計は、前連結会計年度末に比べ22,812百万円増加し、219,154百万円となりました。流動資産は、主に営業債権及びその他の債権が4,053百万円、棚卸資産が3,772百万円それぞれ増加し、一方で、その他の金融資産が2,554百万円減少した結果、7,914百万円の増加となりました。非流動資産は、主に持分法で会計処理されている投資が14,613百万円増加したことにより、14,899百万円の増加となりました。

負債合計は、前連結会計年度末に比べ8,076百万円増加し、58,919百万円となりました。流動負債は、主に営業債務及びそ

### 連結財政状態計算書(B/S)

		(単位:億円)	
	2021年3月期	2022年3月期	
資本			
流動資産	1,170	1,249	
現金および現金同等物	374	400	
営業債権	386	426	
その他の金融資産	204	178	
棚卸資産	196	234	
その他流動資産	8	8	
非流動資産	793	942	
資産合計	1,963	2,191	
負債			
流動負債	441	518	
営業債務	139	159	
その他	302	358	
非流動負債	66	71	
負債合計	508	589	
資本合計	1,454	1,602	

### 親会社所有者帰属持分比率の推移



## キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度と比べ収入が3,540百万円減少し、19,442百万円の収入となりました。これは主に「営業債務及びその他の債務の減少による支出」が減少し、かつ「契約負債の増加による収入」が増加したもの、「営業債権及びその他の債権の減少による収入」が減少し、かつ「棚卸資産の増加による支出」が増加したためです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度と比べ支出が3,408百万円増加し、14,481百万円の支出となりました。これは主に「定期預金の払戻による収入」が増加し、「投資の取得による支出」が減少したものの、「投資の売却又は償還による収入」が減少し、「持分法で会計処理されている投資の取得による支出」が増加したためです。

財務活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度と比べ収入が4,728百万円増加し、3,389百万円の支出しとなりました。これは主に「短期借入金の増加による収入」および「長期借入れ

による収入」、ならびに「自己株式の売却による収入」が増加したためです。

以上により、当連結会計年度末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末と比べ2,613百万円増加し、40,041百万円となりました。

### キャッシュ・フローの推移

